

食をめぐる現状と課題

- 社会経済構造や国民の食に関する価値観など「食」をめぐる状況が変化し、食生活のあり方も多様化している中で、核家族化の進展や地域社会の弱体化などにより、食の大切さに対する意識が希薄化しています。また、健全な食生活や古くから各地で育まれてきた多彩な地域の食文化が失われつつあることが危惧されています。
- 県民の食生活の現状は、食塩等の過剰摂取や野菜の摂取不足などの栄養等の偏り、朝食の欠食に代表されるような食習慣の乱れ、またこれらに起因する肥満や生活習慣病、過度の痩身や低栄養等の問題も指摘されています。
- 食品の安全性に関わる国内外の事象は相変わらず発生し、県民の関心は依然として高まっています。その一方で、マスメディア等を通じて食に関する情報が氾濫しており、食品の安全性の確保と県民の理解の促進を図る必要があります。
- さらに、食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることについて、感謝の念や理解が深まる取組を通して、食料問題を検討していく視点も必要となっています。

「食」をめぐるさまざまな問題が依然として、各分野に顕在化

健康・食生活

- ・食塩の過剰摂取、野菜不足等の栄養バランスの偏り
- ・朝食の欠食に代表される食習慣の乱れ
- ・中でも、若い世代の食の問題の増加
- ・これらに起因する生活習慣病の増加

若い世代の食の現状

- ・朝食を食べないことがある割合が高い
- ・主食・主菜・副菜をそろえて食べる割合が低い
- ・自らが調理し、食事を作る頻度が低い
- ・栄養バランスに配慮した食生活の実践状況が低い

食文化

- ・地域の郷土料理や伝統料理、行事食等、日本の伝統的な食文化の保護・継承が必要
- ・食文化の伝承を担う人材や食文化に触れる機会の不足
- ・栄養バランスに優れた「日本型食生活」の普及が必要

食料・農業

- ・食料自給率の低迷
- ・県産農林水産物の利用拡大や農業の重要性の理解が必要
- ・食品廃棄や食料資源のロスの増加
- ・生産から消費までの食の循環を実感する機会が必要

食の安全

- ・食の安全・安心への関心の高まり
- ・マスメディア等を通じて食に関する情報が氾濫
- ・食に関する正しい情報を適切に判断する力の必要性

近年、食品の安全性を脅かす問題の発生

- ・県民が県に望む対策の重要度の上位
「輸入食品の安全性確保」「食中毒対策」
「食品検査体制の充実」「食品中の放射性物質対策」
「農業の使用・残留に関する農産物の安全性確保」

食育で健康寿命の延伸を目指す

保健医療を取り巻く環境の変化

生活環境

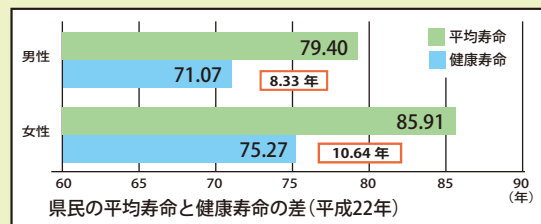
- ・世帯構造(家族形態)や生活の多様化
- ・単身世帯、ひとり親世帯、共働き世帯、生活困窮者世帯、ひとり暮らし高齢者の増加

社会環境

- ・少子高齢化が進展する中、医療費の適正化と社会給付費の延びの抑制が重要な課題
- ・外食や中食に関する食品事業者の多様化 ・健康戦略として健康産業の育成の推進
- ・日本の伝統的な食文化「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録

平均寿命の伸びを健康寿命の伸びが上回ることが必要

健康寿命は、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間です。平均寿命と健康寿命の差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味します。この差を短縮することが必要です。



社会全体の問題として捉え、総合的に対応するための社会環境の整備が重要